

色覚アクセシビリティをお手伝いします! 色覚補正アルゴリズム

複雑化する情報をわかりやすく伝えるために、色を活用するケースが増大している現代。しかし、遺伝特性によって、色の見え方、感じ方(色覚)は千差万別。重要な情報がうまく伝わらずに不便を感じる場合も多くあります。

そこで、さまざまな色使いや形に配慮した「色覚バリアフリー」の取り組みが時代の潮流となり、「カラーユニバーサルデザイン」の導入が多くの場面で進んでいます。

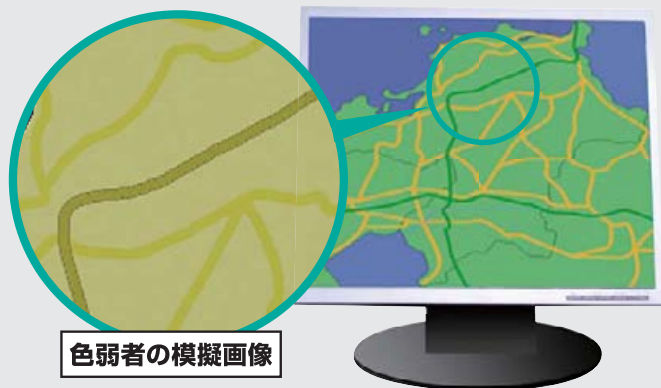
NSWの「色覚補正アルゴリズム」は、認識しづらい色が隣接する場合、それらの色の境界を強調することにより、元画像を大きく変更することなく形や文字などを認識しやすくします。

特長

- 認識しづらい部分にのみエッジ強調処理
- 処理が軽くリアルタイムで補正が可能
(ハードウェア処理の場合)

使用例

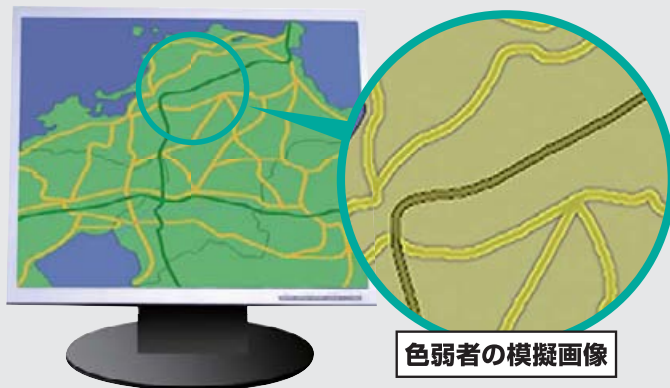
- カメラ付きの携帯端末
- 公共の情報端末
- ディスプレイ、プロジェクターなどの表示機器



色弱者の模擬画像

補正なし

一般色覚者の画像



色弱者の模擬画像

補正あり ※エッジ強調処理

一般色覚者の画像

システム概要

- 入力/出力画像データ: RGBフォーマット(8bit、その他)に対応
RGBフォーマット以外も別途変換回路にて対応可能
- 画像サイズ: 最大1920×1080p(60Frame/sec)に対応

特許出願中